

令和4年度第2回 市民まちづくり集会

語らんかい 住みたいひたって どんなひた？

令和5年3月11日（土）



大分県日田市

集会の概要

■ とき

令和5年3月11日（土） 午後1時～4時半

■ ところ

（Web）Zoomを活用したオンライン開催 （対面）日田市役所4階 401会議

■ 参加者

16歳以上の市民に対し、以下の方法により募集し応募のあった11名と大分大学生3名の計14名

【募集方法】

- ① 無作為に抽出された1,000名の市民へ案内を送付
- ② 広報・SNSを通じて募集
- ③ 令和元年度市民まちづくり集会参加者へ案内を送付

■ 目的

第6次日田市総合計画第3期基本計画の策定において、立案段階における市民参画機会の創出及び市民の意見を反映すること、また市民参画への意識醸成やきっかけづくりとすることを目的とし、今回の市民まちづくり集会を開催しました。

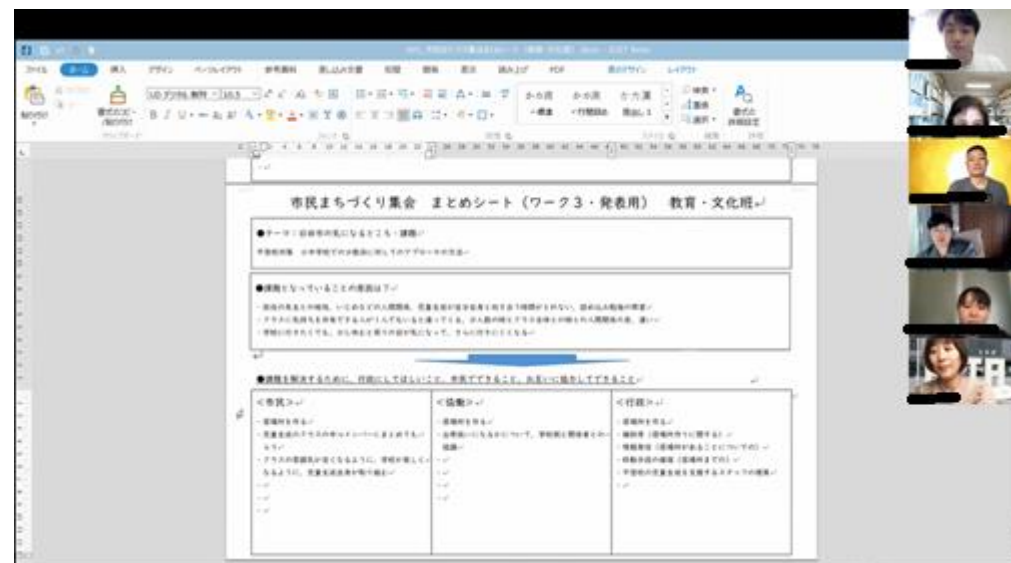
■ コーディネーター

大分大学経済学部 社会イノベーション学科 渡邊 博子 教授

初のオンライン開催！

今回の市民まちづくり集会では、若者や子育て世代の方々にも自宅から気軽に参加していただけるよう、Web会議ツール（Zoom）を使ったオンライン会議にて開催しました！

初のオンライン会議ではありましたが、「場所を選ばずに参加できた」「移動時間がなく、気軽に参加できた」「感染症のリスクを抑えられた」などの意見をいただき、オンラインならではのメリットを感じることができるようになりました。また、「対面のほうが話が弾む」「空気感が伝わる」といった意見もあったため、今後オンラインで開催する際は、より参加者の距離感が縮まるような工夫も必要であると感じました。



当日の流れ①

13:00～
開会

- ・開会挨拶
- ・市民まちづくり集会の目的、今回の趣旨を説明

13:30～
ワーク
ショップ

日田市がまちづくりを進めるうえでの最上位の計画となる「第6次日田市総合計画」にて定めている6つの政策の柱「まちづくりの大綱」ごとに、グループに分かれ下記3つのワークを通してひたについて語り合いました。

【まちづくりの大綱】

(1) 市民協働 (2) 福祉 (3) 産業振興 (4) 生活基盤 (5) 教育・文化 (6) 環境

※「(4) 生活基盤」は参加希望がいなかったため、当日はそれ以外の5グループでワークを実施。

■ ワーク1「日田市の気になるところ、こうなれば住みやすくなると思うことについて、自由に話してみよう」

まずは、日田に住んでいるなかで日ごろ「こういうところが気になるよね～」「もっとこうならんかな?」と感じていることを、メンバー同士で意見を出し合ってみました。

■ ワーク2「人材もお金も限りがあるときに、優先して解決したいものってなんだろう」

ワーク1で出た気になることは、人材もお金も足りない状況で全部を一気に解決は難しいです。もし1つだけしか解決できない…というときに、優先して解決したいことってなんだろうか、メンバーで話しあって決めました。

■ ワーク3「ワーク2で選択した課題の原因はなんだろう。それを解決するためにできることは？」

ワーク2で1つに絞った課題について深掘りしていきます。まずは課題の原因ってどんなことがあるのか、続けてどのようなことをすればその課題の解決につながっていくのか、さらにはその解決策が「市民でできること」なのか、「市民と行政が協働でできること」なのか、「行政に実施してほしいもの」なのかを分けました。

当日の流れ②

15：20～ 発表	各グループごとにワーク3で作成したまとめシートをもとに、以下の内容について発表しました。 ・グループで1つ選択した「ひたの気になるところ」 ・課題になっていることの原因 ・解決に向けて「市民でできること」「協働してできること」「行政にしてほしいこと」 グループの発表ごとに、渡邊教授から講評をいただきました。
16：00～ 振り返り	事務局のほうから、参加者の皆さんへのフィードバックとして、今回ワークショップのなかで上がった「日田市の課題点」や「解決策」について、令和5年度に策定を控えた「第6次日田市総合計画 第3期基本計画」の策定資料とすること。また課題に対する検討結果について、審議・講評を行うことをお伝えしました。 また今日の集会全体を通して、渡邊教授から<u>総評</u>をいただきました。
16：20 閉会	・閉会挨拶

【渡邊教授 総評】

まちづくりにおいては、情報の共有（共通する場づくり）がとても重要であり、喜びや安心感の共有はもとより、危機感を共有し、市民が自分事として落とし込むことが重要。危機感とは、人口が減ることではなく、減ることによって産業が衰退すること、生き生きとした活動などが何もできなくなることです。

これからのまちづくりは、人口が減ることを踏まえて、地域資源（ヒト・モノ）を活用した新しいシステムやモデルを創出することが重要であり、そこに関わってくるのが若い人の価値観や企業の新しい事業・アイデアであります。

新しいモデルを創るためには若者の人材育成と多様性（人種、性別、世代、価値観）を受け入れることが重要です。日田市は地域資源もたくさんあるので、ヒト・モノ・情報を生かして、ますます活発にまちづくりが進められたら何よりです。

各グループの発表内容は
次のページから！

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク１・２） 市民協働班

●ワーク１：日田市の気になるところ、課題と思うところを自由にあげてみよう

- ・ 若者離れ、高校生から 20 代前半（祭りの時しか見ない）。若者から流行が発信するのにうまく活用できていない。
- ・ 起業を応援したい。日田市を盛り上げていきたいが、若い方に日田の魅力が伝わっていない。
- ・ 集まって楽しいところがいっぱいあるとよい（自然を活用したもの）。
- ・ 日田のよいところである自然、美しい景色、水 等の自然の有効活用ができないか。
- ・ 子育て支援を充実してほしい。小さい子が集まれる場所が少ない。特に 5 歳未満で天候に関係なく遊べる場所が少ない。
- ・ 話し合う場があるとよい。年齢を問わず楽しいところがあるとよい。
- ・ 農業のトータルデザイン。まちづくりと一体的に農業の活性化ができないか。
- ・ 市内で買い物や娯楽など、お金の落とし場所が少ない。ゲームセンター等の遊びが少ない。
- ・ 中学生が小学生を教える場等の世代を超えた交流の場はできないか。
- ・ 未来に希望がない（大人になりたい子 25 人に 1 人）、大人がキラキラしていない。自殺率、不登校の増加につながる。
- ・ コミュニケーションの苦手な時代であり、考える力のある人材育成が必要。
- ・ 一人ではできないので、みんなを巻き込んでいくことが必要。
- ・ 有機農業の普及。
- ・ 高校生の意見を聞く場がない。どんなまちなら住みたいか、出て行かないか直接聞きたい。機会を創出したいが、学校で社会人と意見交換を行う場はないのか。
- ・ 自治会や会議の場の雰囲気が堅いので、ファシリテーションを活用した会議を広げられないか。

●ワーク２：↑の中でも特に解決したいものを 1 つ選んでみよう

・ 若者離れが深刻である。若い方に日田市の魅力が伝わっていないではないか。また、若者が自分の必要性を感じているのか。あなたがひとりいることで変わる可能性があることを感じてほしい。人と違うことを個性として認める。どうしたら若者にその考えが浸透できるのか。否定から入る風潮があるが、いいところを探すことが楽しいのに。

→集まって楽しいところがいっぱいあるとよい。まずは、楽しい話し合いの場を設けたらよいのでは。

市民まちづくり集会　まとめシート（ワーク3・発表用）　市民協働班

●テーマ：日田市の気になるところ・課題

日田市の若者離れ、後継者（農業等）不足が深刻。学生に大人になる希望がない。

●課題となっていることの原因は？

若い方に日田市の魅力が伝わっていない。自分の必要性を感じていない。

人と違うことを個性として認めることができていない。人と違うことを個性として認めることができていない。

あなたがひとりいることで変わる可能性があることを感じてほしい。

●課題を解決するために、行政にしてほしいこと、市民でできること、お互いに協力してできること

<市民>

<協働>

<行政>

・学校で実施することが難しい、学校教育の柔軟性の実現はできないのか。

・リアルな声を聞く場の創出。同じ目的を持つ方でイベントを実施できないか。

・年齢問わず集まって楽しい話し合いの場（ファシリテーターを活用したもの）やイベントが沢山あるとよい。
例えば、楽しい話し合いの場のマルシェ、テーマごとのブースを作る等、目的を作ると話し合いの場ができる。
どんなテーマだと参加しやすいかアンケートを行ってもよいし、イベントに合わせて開催してもよいのでは。

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク１・２） 福祉班

●ワーク１：日田市の気になるところ、課題と思うところを自由にあげてみよう

- ・ 中心部は病院、介護事業所等があるが、津江地域になると介護サービスを受けようにも難しい。買い物に出ようにも、公共交通もバスの運行がなくなっていくのではないかと。地域での営業も難しいと思われる。
- ・ 人口が密集していない。減っているところに事業所は設立しない。選択できるサービスが非常に少ない。
- ・ 子育ては非常にしやすいのかなと思う。病院も医療費無料。ただ、今後大学や専門学校に行くとなったときにお金がかかる。日田には教育機関がない、一人暮らしの生活費・学費が大変。
- ・ 社協、採算があわないところがある。サービスを永続的に維持することが難しい。→担い手である人材、若い層が少ない。福岡への人材流出もある。
- ・ 福祉（高齢者、障害者、こども）を統合しようとする動きがある。
- ・ 天ヶ瀬（旧郡部）に住んでいる高齢者で、若い人と同居している人が少ない→移動が難しい。バス停や駅まで行くのも大変。通いの場が大事。
- ・ 通いの場→包括が支援。地域で２～３人集まって週２、３で運動。交流機会もある。主体も地域住民。ただ、立ち上げる、継続させるのが難しい。
- ・ 民生委員が立ち上げの中心になるが、ただでさえ忙しいから厳しい。自治会長の負担も重い。
- ・ 立ち上がらない地域は、交流が少ない地域。市内になると、共通の住宅（マンション等）になると、仲良くなるとかが難しく、孤立してしまうケースもある。
- ・ 「関係の希薄化」。新しい取組をしようにも難しい。
- ・ 少ない地域のなかで、民生委員を選ぶにも、３人のなかから選んだりしなければならないときもある。新しい方法を考えないといけないのかも。

●ワーク２：↑の中でも特に解決したいものを１つ選んでみよう

- ・ 民生委員、自治会長の負担が重く、通いの場等の地域活動の立ち上げ・継続が難しい。しょうがなくやってくれている人もいる。
「関係の希薄化」が進み、地域のつながりづくりがなくなっている。

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク3・発表用） 福祉班

●テーマ：日田市の気になるところ・課題

民生委員、自治会長の負担が重く、通いの場等の地域活動の立ち上げ・継続が難しい。しょうがなくやってくれている人もいる。

「関係の希薄化」が進み、地域のつながりがなくなっている。

●課題となっていることの原因は？

- ・ 過去と比べて、関係が希薄化している。核家族化している。高齢者夫婦のみの世帯で、近くに子どもや親しい隣人もいない。買い物、病院に連れて行ける人も少なくなっている（特に旧郡部）。
- ・ 社会の形態が変わっている（核家族化）。自治会長も高齢化が進んでいるため、ずっとは続かない。デジタルの狭間、使えるひとと使えない人がいるため、みんなが使えるデジタル化が進めば解決につながるかも。
- ・ 介護サービス、以前はなかったものが制度的に整ってきたものはあるが、その分事業所に通うようになって、地域力が弱まるというジレンマがある。
→サービスで拾えない部分が課題になっている（移動支援、互いの助け合い）。
- ・ 青年、こども会など、昔やっていたことが少なくなっている
- ・ 地域の若者が減っているから、地域でできることも少なくなっている。高齢者の負担も増えてる。

●課題を解決するために、行政にしてほしいこと、市民でできること、お互いに協力してできること

<市民>

- ・ 通いの場、立ち上げは難しいが、地域主体になるよう意識をつけられたらよい。

<協働>

- ・ 今日のまちづくり集会みたいに、福祉分野での会議をもっと市民を集めてできると、ヒントが得られるのではないかな。民生委員など当事者の人たちを集めて話が聞ける機会があるといいと思う。
- ・ 地域が集まる会議の場を作る。時間と日時を指定して年代関係なく話す場を作り上げていければよい。

<行政>

- ・ ボランティア、モチベ頼りではなく、きちんと対価を支払うことが担い手の確保にもつながる。行政が担っている部分を、仕事として地域におろす。
- ・ 小学校教育に結びつけると、全年代が集まるので、地域の集まる場として活かしていけたらいいと思う。

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク１・２） 産業振興班

●ワーク１：日田市の気になるところ、課題と思うところを自由にあげてみよう

- ・ 日田の印象：観光温泉キャンプサイクリングイベントがさかん。観光客に向けての情報発信に力を入れていると感じる。
- ・ 人口減少少子化、外国人労働者技術者の受け入れ。
- ・ 観光や文化資源が多いまちなので、そうした資源を活用したスタートアップの増加。
- ・ 若い世代が集まれる場所が少ない。
- ・ 世代を問わず集まれる場所。世代間交流ができる場所がほしい。旅先での地域の人との交流の場。
- ・ 社会減による人口減少。
- ・ 外国人観光客向けの観光モデルルートがあまり知られていない。
- ・ 観光客が日田に立ち寄って宿泊やアクティビティをせずに通過していくだけの割合が多い。
- ・ 夜のイベント、午前中の観光コンテンツが必要。
- ・ ２次交通が少ない。

●ワーク２：↑の中でも特に解決したいものを１つ選んでみよう

- ・ 日田には外国人観光客が興味を持つ観光資源、自然、文化、歴史などの地域資源が豊富だが、日田に入ってきてからのモデルルート、２次交通手段が乏しい。また、来てもらってもお金を落としてもらえていない。

市民まちづくり集会　まとめシート（ワーク３・発表用）　産業振興班

●テーマ：日田市の気になるところ・課題

日田には外国人観光客が興味を持つ観光資源、自然、文化、歴史などの地域資源が豊富だが、日田に入ってきてからのモデルルート、２次交通手段が乏しい。また、来てもらってもお金を落としてもらえていない。

●課題となっていることの原因は？

- ・ 市民が日田の持つ資源の価値を理解していないのではないか
- ・ 市民にとってはあって当たり前のもの

●課題を解決するために、行政にしてほしいこと、市民でできること、お互いに協力してできること

<市民>

- ・ モデルルートに居酒屋（地元の店）を入れて、外国人観光客と交流できるように
- ・ 気軽に立ち寄れる交流の拠点
- ・ 市民の主体意識の醸成

<協働>

- ・ 住民と外部を巻き込んだ交流の場
- ・ 日田の価値は外部の人の方が理解し発信できる
- ・ 市民の主体意識の醸成

<行政>

- ・ 交流の場の情報発信
- ・ 観光客と積極的に交流している店舗の認証制度
- ・ 地域おこし協力隊の活用

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク１・２） 教育・文化班

●ワーク１：日田市の気になるところ、課題と思うところを自由にあげてみよう

- ・ 社会人のスポーツサークル活動で交流したい。活動についての情報があればいいと思う。
- ・ 不登校対策 やまびこ学級があるが利用しているのは少数。残りの多くの児童生徒への支援。
- ・ 小中学校では地域と関わる学習があったが、高校では地域との関わりがほとんどない。
- ・ 地域との関わりがあれば、将来の進路を考えることにもつながる。
- ・ 僕らの未来会議では、高校生の中から、日田市の魅力があまり出てこなかった。
- ・ たくさん文化的な祭がある。
- ・ 鼓笛とか屋台が多いとかも魅力。
- ・ 豆田町も１７時には店が閉まって、高校生が利用できない、若い世代に魅力が伝わりにくい。
- ・ 大学で北九州、熊本などの都市部、市外に出たら、日田の魅力、良さがわかる。
- ・ 過ごしやすい、日田市は。

●ワーク２：↑の中でも特に解決したいものを１つ選んでみよう

- ・ 不登校対策 学校での少数派に対してのアプローチの方法
- ・ 地域との関わりを持った学習の場
- ・ 日田市の魅力発信

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク３・発表用） 教育・文化班

●テーマ：日田市の気になるところ・課題

不登校対策 小中学校での少数派に対してのアプローチの方法

●課題となっていることの原因は？

- ・ 担任の先生との相性、いじめなどの人間関係、児童生徒が自分自身と向き合う時間がとれない、詰め込み勉強の弊害
- ・ クラスに気持ちを共有できる人が１人でもいると違って、少人数の時とクラス全体との時との人間関係の差、違い
- ・ 学校に行きたくても、少し休むと周りの目が気になって、さらに行きにくくなる

●課題を解決するために、行政にしてほしいこと、市民でできること、お互いに協力してできること

<市民>

- ・ 居場所を作る
- ・ 児童生徒のクラスを中心メンバーにまとめてもらう
- ・ クラスの雰囲気が良くなるように、学校が楽しくなるように、児童生徒自身が取り組む

<協働>

- ・ 居場所を作る
- ・ 出席扱いになるかについて、学校側と関係者との協議

<行政>

- ・ 居場所を作る
- ・ 補助等（居場所作りに関する）
- ・ 情報発信（居場所があることについての）
- ・ 移動手段の確保（居場所までの）
- ・ 不登校の児童生徒を支援するスタッフの増員

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク１・２） 環境班

●ワーク１：日田市の気になるところ、課題と思うところを自由にあげてみよう

- ・ 前津江地域は河川の水質が良い、それに比べ市内の水質は汚いと思う。市内周辺部のように市内の水質も綺麗にしたい。
- ・ 人が使わなくなったものを全てごみとして処理するのではなくて、再利用することも検討してもらいたい。ごみ処理費用や運搬費用の削減につながる。そのようなシステム構築を検討してもらいたい。（ほしい人へのマッチング）
- ・ 会社で清掃活動を行っているが、１週間もするとまたごみ（ポイ捨て）が増えている、河川や山間部の不法投棄の問題も含め、もう少し市民の方へ環境啓発を実施してもらいたい。
- ・ 障がいがある方も誰でも市民活動に参加できるような取組の構築、社会のバリアフリー化。
- ・ 電気をつくるのにもエネルギーが必要となる、自然エネルギーへの転換と活用をもっと検討してみては？
- ・ 日田にはたくさんダムがある、いいところだと思う。
- ・ 清掃センターに行ってみると、まだ使える物がたくさんある。もったいない。
- ・ 高齢者のごみ出しの支援
- ・ 高齢者のひとり暮らしの方は支援がないと、ごみ屋敷になるのではないか。

●ワーク２：↑の中でも特に解決したいものを１つ選んでみよう

- ・ 家庭から出るごみの再利用、ごみ処理費用などの軽減に向けた取組（仕組の検討）

市民まちづくり集会 まとめシート（ワーク3・発表用） 環境班

●テーマ：日田市の気になるところ・課題

- ・ 家庭から出るごみの再利用

●課題となっていることの原因は？

- ・ 必要としている人がいることを知らない人が多い。
- ・ バイオマス資源化センターの仕組みを知らない人が多い（生ごみの資源化【エネルギー、堆肥化】）
- ・ 情報発信不足（SNSの活用を）←高齢者には難しい部分もある
- ・ ごみの現状を知らない、ごみに対する認識不足

●課題を解決するために、行政にしてほしいこと、市民でできること、お互いに協力してできること

<市民>

- ・ ごみ排出量の削減
- ・ ごみに対する意識改革
- ・ ごみ（資源）の再利用

<協働>

- ・ イベントの開催（市民、企業、行政）
- ・ 美化活動への参加（市民、企業、行政）
- ・ 仕組みの構築（ごみの再利用、マッチング）
- ・ 高齢者への情報発信（市民、民政委員、集落支援員など）

<行政>

- ・ 情報発信（広報、SNS）
- ・ 仕組みの構築（ごみの再利用、マッチング）
- ・ ごみの現状の周知
- ・ 市民向けの意識改革（市民が自発的に行動できるような研修の実施等）

参加者の意見

- こうした機会が年に1度あるということで私は今回初めて参加したが、また参加したい、もっと多くの人とも交流したいと思った。
- 行政等関係者だけでなく、様々な分野の年齢が近い方と日田市について熱く語れる場があると良いなと思った。
- 興味のある話もあって楽しかった。
- 日田市は観光資源や「日田市らしさ」が満ちている。一方、日田市には自分の地域の魅力や誇りに思える主体意識の醸成が少ない事が見えてきた。
- 実際に話し合ったことについて、少しでも早く日田市に反映されたらありがたい。
- こういった機会を増やした方がいいと思う。
- それぞれの活動を応援しあって、そこに行政などを絡めて、市全体でできることを応援し合えたら、喜びが喜びを呼んで、街が活性化やより良くなると信じている。
- 一般市民の方がもっと多く参加して話が聞けると良い。日田はお祭りやイベントが随時開催されているので、そういった機会も活用して多く意見を聞ける良い。

